

一般質問とは、議員が市政の執行状況や方針などを質問し、市の考え方を明らかにするものです。内容を要約し、発言順に掲載しています。※今定例会は演壇、質問席に飛沫防止パネルを設置しているため、適宜マスクを外すことを認めています。



そうま市民の会
浦島勇一 議員
が問う！

総合的な
学力向上の為に！！

リーディングスキルテスト 導入について

本年4月27日に就任してから、スピード感を以て事業の企画立案、そして具現化をする福地教育長の行動力に敬意を表する。

現況の課題山積の中に於いても、次世代を担う子どもたちの総合的な学力向上に資する事業になるものと期待を寄せ、尋ねる。

Q. 導入の経緯と今後の実施内容について問う。

A. 県の主要施策の一つとして取り組まれているリーディングスキルテストが、児童生徒の

読解力を可視化し、客観的なデータに基づいて分析することで教員の授業改善や指導力向上、ひいては児童生徒の学力向上につなげることができる重要な教育ツールであると判断し、導入を決定した。

今後は、小学校6年生から中学校3年生までの児童生徒と指導する教員の受検、その結果の分析を基にした授業への活用方法に関する研修会等、リーディングスキルテストを行っていくにあたってのスケジュールや方法論等について、市教育委員会と「教育のための科学研究所」で調整をした上で、実施する方向で進めていく。

Q. 事業の成果判断と今後の継続事業への位置付けについて問う。

A. 事業の成果判断と継続事業への位置付けについては、PDCAサイクルに則って進めていく。「主語と述語の関係など、文の基本的な構造を理解しているか」など、リーディングスキルテストの視点に立ち、日々の授業や各種評価テストなどの結果から、子どもたちの読解力や学力に向上がみられるかを確認していき、どのような授業や学習が必要かを逆算し、指導方法の改善に取り組んでいく。

また、取組の成果を検証するには、ある程度長い期間での取組が必要だと考えているが、今年度の事業の成果と課題を適切に検証し、次年度以降の取組につないでいきたいと考えている。

その他の質問

○東京電力福島第一原子力発電所
事故への対応について



新政会
瀬庭大輔 議員
が問う！

利用者の多いLINEを
導入し、手元に届く
情報の発信をすべき！！

相馬市のICTの活用について

日本国内で一番多く利用されているのはLINEであり、連絡ツールとして日常で広く利用されている。

また、情報発信だけでなく、市民との双方向でのやりとりが出来るため、導入する事で、災害時に信用性の高い状況が把握でき、市民の安全サポートに活用する事が出来るため早急な対応を求める。

Q. 防災・災害時におけるICTの活用について問う。

A. 市は、災害の発生が懸念される場合に、気象に関する情報や市民の避難に関する情報な

どを、迅速かつ的確に市民へ伝えるため、市防災メール、市ホームページ、ツイッター及び各携帯電話会社の緊急速報メール、さらには総務省が設置し、テレビなどに避難所開設などの情報を一括して配信するアラートを活用している。

また、議員提案のLINEは、写真など視覚的な情報を文字情報とあわせて発信することが可能であり、より具体的に災害状況などが把握できることから、他自治体等での活用状況を踏まえたくうえで、その活用について研究していきたいと考えている。

なお、活用することとした際には、市民から災害に係る情報などを収集できるよう取り組んでいきたいと考えている。

Q. ICTを活用した広報活動について問う。

A. 市は、市政情報を発信するための媒体として、広報そうまや市ホームページの活用はもとより、平成27年度からはツイッターを、平成28年度からはフェイスブックを活用している。

さらに、昨年3月に市ホームページをリニューアルし、特にお知らせしたいトピックスなどの記事を自動的にツイッターに投稿するなどの機能を強化し、より多くの情報を発信できるよう努めている。

また、議員提案のLINEは、若い世代のみならず、中高年の世代にも利用が広がり、国内で利用者が最も多いSNSであることから、他自治体の事例等を参考に、その活用について研究を進めていきたいと考えている。



にじ
横山和雄 議員
が問う！

インフルエンザ
流行期においても、
しっかりとした対策を！！

新型コロナウイルス対策について

新型コロナウイルス感染症が感染拡大している中、まもなくインフルエンザ流行期が到来する。症状として新型コロナウイルス感染症と似たような症状が現れることから、二つの感染症を区別する為の検査体制の構築等が発熱外来等に求められる。そのような時期における市の対応について伺う。

Q. インフルエンザ流行期における相馬市の対策について問う。

A. 新型コロナウイルスの抗原キットは、品薄になることが予想され、十分に確保できない

可能性があるため、その場合は、まずインフルエンザの検査を行い、インフルエンザが陽性のときには、新型コロナウイルスの検査は行わず、インフルエンザが陰性だった場合に、新型コロナウイルスの抗原検査を行うことで対応したいと考えている。

9月以降、発熱外来診察室の診療を土日、祝日を含む毎日行う体制で運営しているが、インフルエンザ感染爆発期に備えて、市医師会相馬支部、市内病院と協議のうえ、午後の診療時間の延長や午前中の診療も視野に入れ、体制の強化を検討していきたいと考えている。

Q. PCR・抗原検査希望者への対応について問う。

A. 新型コロナウイルスの検査については、行政検査、保険診療による検査、自由診療による自費の検査がある。

行政検査は、医師や保健所が必要と判断した場合に行うもの。保険診療による検査は、入院や手術の前、或いは転院前などに保険診療で行うもの。自由診療による検査は、現在、市内に検査施設はないが、近隣では、宮城県内に施設があり、希望によりPCR検査等を受けることができるものの、その費用はすべて自費となる。

市としては、行政検査を主体に、医師あるいは保健所の判断により、症状のある方や濃厚接触者のPCR検査等を実施すべきと考えている。

仕事の都合で都市部との往來を理由に検査を希望する方の検査については、当市では該当する医療機関等がない状況である。

